【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第５部門第２区分
【発行日】平成29年11月24日(2017.11.24)

【公開番号】特開2017-187062(P2017-187062A)
【公開日】平成29年10月12日(2017.10.12)
【年通号数】公開・登録公報2017-039
【出願番号】特願2016-74110(P2016-74110)
【国際特許分類】
Ｆ１６Ｃ　41/00　(2006.01)
Ｆ１６Ｃ　19/52　(2006.01)
Ｆ１６Ｃ　19/06　(2006.01)
Ｆ１６Ｃ　33/38　(2006.01)
Ｆ１６Ｃ　33/78　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｆ１６Ｃ　41/00
Ｆ１６Ｃ　19/52
Ｆ１６Ｃ　19/06
Ｆ１６Ｃ　33/38
Ｆ１６Ｃ　33/78　Ｚ

【手続補正書】
【提出日】平成29年9月22日(2017.9.22)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
外周面に内輪軌道面を有する内輪と、
前記内輪軌道面と対向配置される外輪軌道面を内周面に有する外輪と、
前記内輪軌道面と前記外輪軌道面とで形成される軌道に配置された転動体と、
環状体からなる保持器であって、前記転動体を回転自在に保持するポケットを有し、前記ポケットは前記環状体の周面を貫通し、前記ポケットは前記環状体の周方向に複数個形成され、隣り合う前記ポケット間の部分に、軸方向に伸びる貫通穴が形成された保持器と、
複数の磁石であって、前記保持器の前記貫通穴に、前記環状体の周方向で各磁石のＮ極とＳ極が隣り合うように固定された磁石と、
前記内輪と前記外輪との間を軸方向一端部で密封する第一シールであって、前記保持器に対して相対回転する第一シールと、
前記第一シールの前記磁石との対向面に固定されたコイルと、
前記内輪と前記外輪との間を軸方向他端部で密封する第二シールと、
前記内輪、前記外輪、および前記第一シールのいずれかに設置されたセンサと、
前記第一シールに形成された回路部であって、前記磁石と前記コイルとの相対回転による電磁誘導で前記コイルに生じた電流を電源供給部へ供給する電源回路と、前記センサで検出された検出情報から検出値を演算する演算回路と、演算結果を示す無線信号を作成する無線回路と、を有する回路部と、
前記回路部を前記磁石から磁気的に遮蔽する磁気シールドと、
前記無線信号を送信するアンテナであって、前記第一シールに固定されたアンテナと、

を有するワイヤレスセンサ付き軸受。
【請求項２】
前記保持器は、前記ポケットの前記環状体の軸方向一端面が開放されている冠型保持器である請求項１記載のワイヤレスセンサ付き軸受。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００６】
この発明の第二態様であるワイヤレスセンサ付き軸受は、下記の構成(11)～(17)を有する。
(11)外周面に内輪軌道面を有する内輪と、前記内輪軌道面と対向配置される外輪軌道面を内周面に有する外輪と、前記内輪軌道面と前記外輪軌道面とで形成される軌道に配置された転動体と、を有する。
(12)環状体からなる保持器であって、前記転動体を回転自在に保持するポケットを有し、前記ポケットは前記環状体の周面を貫通し、前記ポケットは前記環状体の周方向に複数個形成された保持器を有する。隣り合う前記ポケット間の部分に、軸方向に伸びる貫通穴が形成されている。
(13)複数の磁石であって、前記保持器の前記貫通穴に、前記環状体の周方向で各磁石のＮ極とＳ極が隣り合うように固定された磁石を有する。
(14)前記内輪と前記外輪との間を軸方向一端部で密封する第一シールであって、前記保持器に対して相対回転する第一シールと、前記第一シールの前記磁石との対向面に固定されたコイルと、前記内輪と前記外輪との間を軸方向他端部で密封する第二シールと、を有する。
(15)前記内輪、前記外輪、および前記第一シールのいずれかに設置されたセンサを有する。
(16)前記第一シールに形成された回路部であって、前記磁石と前記コイルとの相対回転による電磁誘導で前記コイルに生じた電流を電源供給部へ供給する電源回路と、前記センサで検出された検出情報から検出値を演算する演算回路と、演算結果を示す無線信号を作成する無線回路と、を備えた回路部を有する。
(17)前記回路部を前記磁石から磁気的に遮蔽する磁気シールドと、前記無線信号を送信するアンテナであって、前記第一シールに固定されたアンテナと、を有する。